

GOSSEN

Starlite

ゴッセン・スターライト取扱説明書



この度はゴッセン・スターライトをお買い上げいただき、ありがとうございます。
この製品を十分理解し、正しくお使いいただくために、ご使用前には必ずこの取扱
説明書をよくお読み下さい。

目次

取扱上のご注意	3		
1 各部の名称	4	7 フラッシュ光モードでの測定	24
2 使用前の準備	6	8 測定範囲/表示範囲を超えた場合	27
3 ディスプレイパネル	8	9 補正值の設定	28
4 操作	12	10 シネ設定	30
5 スターライトの使い方	14	11 照度設定	32
6 定常光測光	16	12 仕様(同梱品)	34

取扱上のご注意

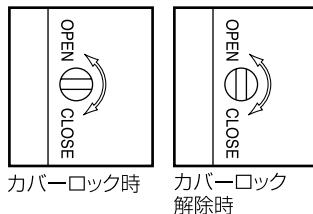
本書に記載の注意事項、および取扱い方法が守られなかった場合、保証が適用されない場合があります。お取り扱いには十分ご注意ください。

- ※本機は精密機器ですので大きな振動や衝撃を与えないようにしてください。
- ※本機を分解しないで下さい。また内部に触れないように十分ご注意ください。
- ※水などの液体やその他の異物が入らないように十分ご注意ください。
- ※温度が極端に低い場所、または高い場所でのご使用・保管はなるべく避けてください。特に直射日光の当たる場所での保管自動車内での長時間にわたる放置は温度上昇の原因となるのでご注意ください。

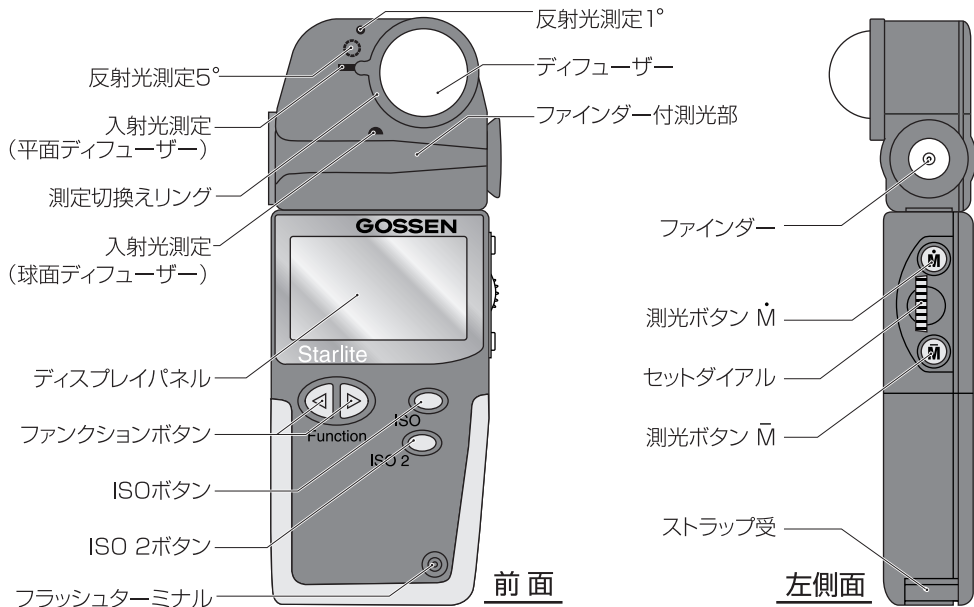
※電池室カバー開閉の際のご注意

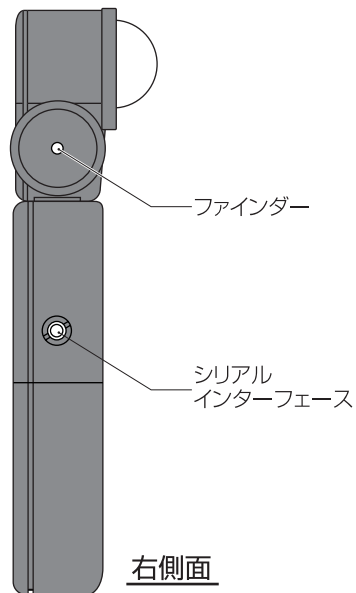
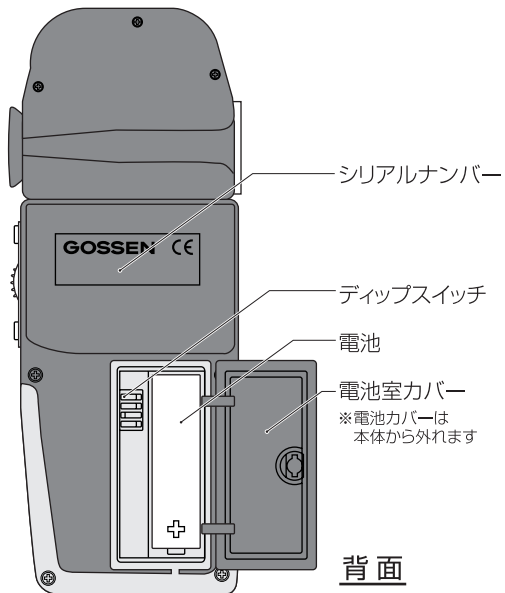
スターライトの電池室カバーは、開いた時に本体から外れるように設計されています。電池の交換の際はこのカバーを落として破損しないようにご注意ください。

電池室カバー



1 各部の名称





2 使用前の準備

1. 電池

スターライトは、単3のアルカリマンガン乾電池1本で作動します。電池が消耗した場合、測定値とともに<BAT>がディスプレイに表示されます。この表示が出たら、できるだけ早く電池を交換して下さい。<BAT>が単独で表示されるようになると、測定は不可能になります。すぐに電池を交換して下さい。電池を交換する時は、電池室のカバーを開け、古い電池を取り外し、新しい電池を+の極性に注意して取り付け、カバーを閉じて下さい。

<電池室カバーの開け方>

コインなどを使ってカバーの窪みを図2のカバーロック解除時の状態にし、カバーを開けて下さい。※カバーは本体から外れます。

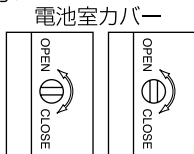
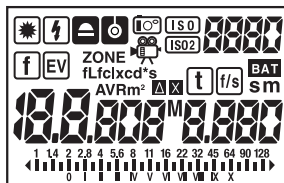


図1 ロック時 図2 ロック解除時

2. 自己診断

電池を交換した場合、自動的に自己診断を行います。自己診断は約10秒で完了し、この間すべてのディスプレイセグメントが表示されます。診断中にどれかのボタンが押されると診断を中止します。診断が完了すると、工場出荷時のデフォルト値が自動的に設定されます。



ISO	: 100/21	ΔX	: 0/1.0
ISO2	: 50/18	t	: 1/125
f	: 5.6	Flash	: f 1/60
EV	: 12		
f/s	: 24		

3.ファンクショングループの選択

電池室内部のディップスイッチの設定

スターライトは、標準の機能に加え、電池室内部のディップスイッチの設定により機能を追加することが可能です。

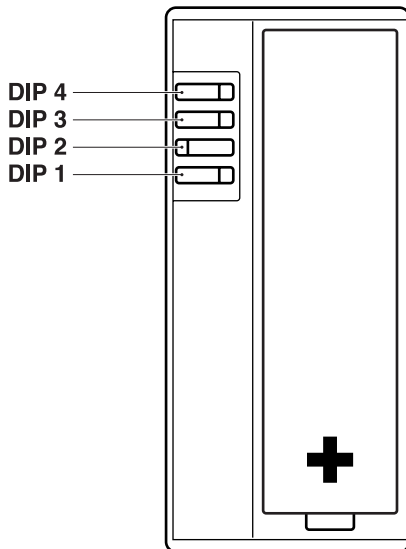
DIP1... スチル写真モード/
シネ及び照度計モード切り替え

DIP2... シャッタースピード
1ステップ/1/2ステップ切り替え

DIP3... 照度計表示単位切り替え

DIP4... 測定モード切り替え
(ゾーンシステム)

Zone System	4	-
fc fl	3	lx cd/m²
1/2 t-Steps	2	1/1 t-Steps
CINE	1	STILL





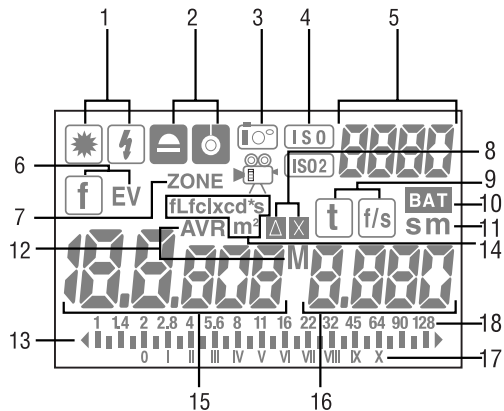
3 ディスプレイパネル

1. ディスプレイパネルの表示エレメント

1	ファンクション	定常光 
		フラッシュ光 
2	測光ヘッド	入射光測定 
		反射光測定 
3	測定モード	スチル写真モード 
		シネ及び照度計モード 
4	フィルム感度 ISO - ISO2	
5	ディスプレイシグナル F-EV	

6	フィルム感度表示	
7	ディスプレイシグナル ZONE	ZONE
8	補正表示	
9	ディスプレイシグナル t-f/s	
10	電池消耗警告	BAT
11	s (秒) - m (分)	sm
12	AVR (平均) - M (メモリー)	AVR M
13	アナログスケール	

14	照度計表示モード ・照度 ・光度 ・時間積分値
15	左側デジタルディスプレイ  ・絞り(f) ・マルチフラッシュ ・EV値 ・平均値／測定回数 ・補正值 ・フラッシュ準備完了 ・ゾーン ・照度計測定値
16	右側デジタルディスプレイ  ・露出時間(t) ・フラッシュ計算/回数 ・補正值 ・シネスピード(f/s)
17	ゾーンスケール 0 I II III IV V VI VII VIII IX X
18	絞りスケール 1 14 2 2.8 4 5.6 8 11 16 22 32 45 64 90 128



3 ディスプレイパネル

2. ディスプレイバックライト照明

使用環境が暗い場合（およそEV4以下）、ディスプレイのバックライトが自動的に約10秒間点灯します。

3. 表示継続時間

約2分間何も操作が行われないと、電源が自動的にOFFとなります。測定値及び設定された値はメモリーに記憶されています。

- どれかのボタンを押すことにより、測定値を呼び出せます。
- 測定ボタンMを押すことにより、新しい測定が行われます。最後に測定された値は、次の測定が行われるまではメモリーに記憶されています。スターライトは、定常光用とフラッシュ光用の2つのメモリーを備えています。

4. キーロック

不用意に電源が入るのを防ぐためにキーロックを行うことができます。

キーロックをするには、ISO と ISO2 ボタンを同時に押します。

OFF、**ISO**、**ISO2** が3秒間表示され、自動的に電源OFFとなります。



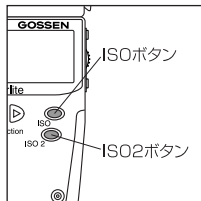
いずれかのボタンが押されると、**OFF**、**ISO**、**ISO2** が再び3秒間表示されます。キーロックを解除するには、この間にISOとISO2 ボタンを同時に押します。

4 操作

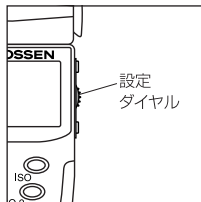
1. ISO、ISO2 感度設定

ISO、ISO2のボタンで、2つの異なった感度を設定することができます。

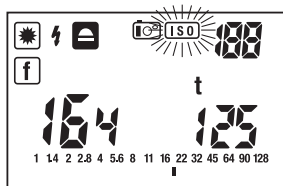
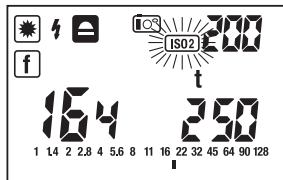
- 感度を設定するには、ISOまたはISO2のボタンを押します。押し続けている間、それぞれの表示が点滅します。



- 設定ダイヤルを回して、希望の感度に合わせます。設定された感度は、ディスプレイパネルの右上に表示されます。



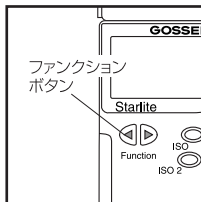
ISO2ボタンを押しますと、最後に測定された値が換算されて(シャッタースピード/絞り)表示されます。感度設定を変更すると、最後に測定された値を新しく設定された感度で換算します。



4 操作

2. ファンクションボタン ◀▶

ファンクションボタンにより、測光モード(定常光☀/フラッシュ光⚡)を選択します。ファンクションボタンを押したまま設定ダイヤルを回すことにより、シャッタースピード優先モード、絞り優先モード、EVモードの選択ができます。



3. 設定ダイヤル

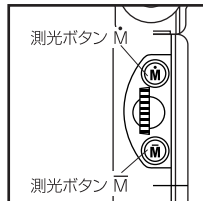
設定ダイヤルは、値や機能を変更する時に使用します。



- 定常光モード、フラッシュ光モード、ISO感度の設定
- ゾーンの設定
- 測定後のシャッタースピード/絞りの組み合わせ呼び出し、マルチフラッシュ計算
- シネモードでのシャッター開角の選択

4. 測光ボタン \dot{M} および \bar{M}

測光ボタン \dot{M} を押し、新規の測光を開始します。古いデータは、消去されます。測光ボタン \bar{M} は、露出の平均値を求める時に使用します。



5.測光ヘッド

測光ヘッドは、スターライトの光学的な中枢部です。ヘッドは、本体に対し、270°の自由な回転角を備えています。

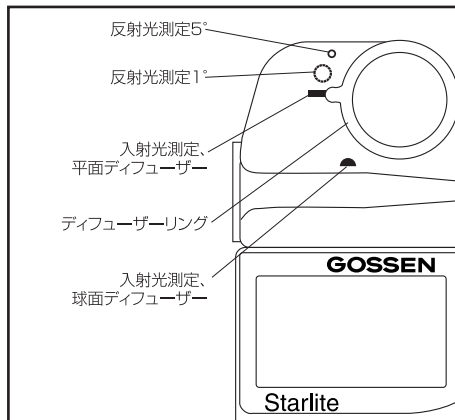
注意

測光ヘッドを、本来の回転角を超えて無理に回さないでください。回すと破損します。

測光ヘッドのディフューザーリングを回すことにより、以下の測光モードを切り替えることができます。


- 反射光測定1° (スポット測光)
- 反射光測定5°
- 入射光測定、平面ディフューザー
- 入射光測定、球面ディフューザー

1°および5°の反射光測定用ビューファインダーは測光ヘッドに装備されています。ファインダー自体の視野角は約12°です。




5 スターライトの使い方


1.入射光測定、球面ディフューザー

ディフューザーリングを回し、入射光測定、球面ディフューザーに設定します。ディフューザーが上がり、ディスプレイに  が表示されます。入射光モードによる測定では、カメラの方を向いた被写体に入ってくる光の量をディフューザーで測定します。従って、被写体のトーンをそのまま再現することができます。これは極端に明るい、あるいは暗い被写体の場合、特に重要です。露出設定の難しいコントラストの高い被写体の場合なども、信頼性の高い測定ができます。

2.入射光測定、平面ディフューザー

ディフューザーを下げた（格納した）平面特性の入射光測定は、複写撮影の場合や、照度測定に適しています。ディフューザーリングを回し、入射光測定、平面ディフューザーに設定します。ディスプレイに  が表示されます。

3.反射光測定1° (スポット測光)

ディフューザーリングを回し、反射光測定1°に設定します。ディスプレイに  が表示されます。ビューファインダーの一番内側の小さい円が測光部分に相当します。

カメラ側から被写体に向かい、ビューファインダーで測光したい部分を狙って、MおよびMボタンを押して測定します。


スポット測光ですから、被写体の細かいディテールも正確に測光することができます。

反射光測定を行う場合、測定された値は必ず被写体の反射率と密接に関連していることに留意する必要があります。このため、明るい被写体は結果として比較的暗く表現され、適切な露出とならないことに注意してください。

反射光測定で適正な露出を得るには、18%の

標準反射板を測定する方法があります。また、9点までの測定を行って、平均値を求める方法もあります。異なったコントラストの測定結果は、アナログ絞りスケールに表示されます。

4.反射光測定5°

ディフューザーリングを回し、反射光測定5°に設定します。ディスプレイに  が表示されます。ビューファインダーの外側の大きい円が測光部分に相当します。

測光の方法、注意点については左記の、<3.反射光測定1°>を参照してください。

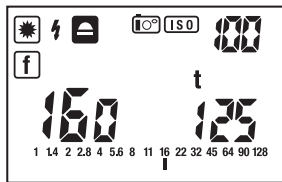
6 定常光測光

- ファンクションボタン ◀ で定常光測定 ✱ を選択します。
(前回の測定値が表示されます。)
- ファンクションボタンを押したまま設定ダイヤルでサブファンクションを設定します。設定された機能は □ で囲まれて表示されます。
- 値の変更は設定ダイヤル単独で行います。

1. 絞り優先モード (f)

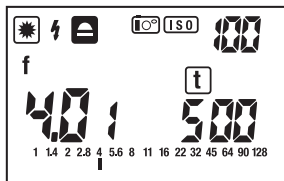
- 測光ボタン M を押して測定します。
- 測定された露出時間 (シャッタースピード) が右側デジタルディスプレイに表示されます。絞り値は、表示された露出時間に対応して、1/10絞りステップに調整されて表示されます。アナログスケールの場合は絞り値が1/2ステップで表示されます。
- 絞りとシャッタースピードの組み合わせは、設定ダイヤルを回転させることで変更できます。

**絞り値を選択する時、今回の条件とは無関係に、前回測定された値が表示されます。



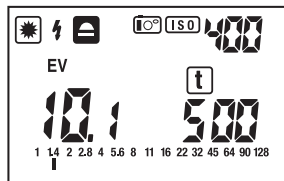
2.シャッタースピード優先モード [t]

- 測光ボタンMを押して測定します。
- 測定された絞り値が左側デジタルディスプレイに1/10絞りステップで表示されます。アナログスケールの場合は絞り値が1/2ステップで表示されます。
- 絞りとシャッタースピードの組み合わせは、設定ダイヤルを回転して変更します。
- シャッタースピードは、標準の1ステップの他、ディップスイッチにより1/2ステップにも設定できます。



3.EVモード [EV]

- 測光ボタンMを押して測定します。
- 測定されたEV値が左側デジタルディスプレイに1/10ステップで表示されます。アナログスケールの場合は絞り値が1/2ステップで表示されます。
- 絞りとシャッタースピードの組み合わせは、設定ダイヤルを回転させることで変更できます。

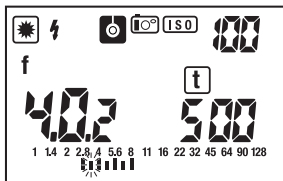


6 定常光測光

4.コントラスト測定（シャッタースピード優先モード及びEVモード）

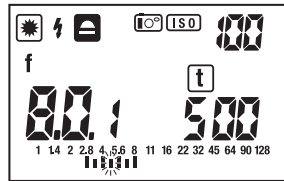
反射光測定

- 測光ボタンMを押したまま被写体のいろいろな部分を測定します。
- 最初の測定値が左側デジタルディスプレイに表示されます。これは基準値として測定中、表示され続けます。（標準反射板での測定値の場合特に有効です）その瞬間の測定値は、アナログスケールに点滅表示されます。
- 測光ボタンMを離すと、測定されたコントラスト範囲がアナログスケール上に表示されます。



入射光測定（平面あるいは球面ディフューザー使用）

- 測光ボタンMを押したまま光源のいろいろな部分を測定します。
- 最初の測定値が左側デジタルディスプレイに表示されます。これは、基準値として測定中ずっと表示され続けます。（標準光源での測定値の場合特に有効です）その瞬間の測定値は、アナログスケールに点滅表示されます。
- 測光ボタンMを離すと、測定された光源コントラスト範囲がアナログスケール上に表示されます。



5. 平均値測定 (シャッタースピード優先モード及びEVモード)

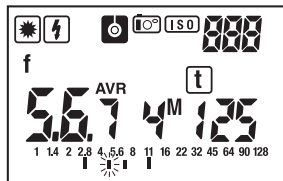
反射光測定

- 最初の測定は測光ボタン \dot{M} を押して行います。
- 平均値測定用測光ボタン \bar{M} を押すことにより、最大8回までの追加コントラスト測定ができます。

測定された値はそれぞれアナログスケール上に表示されます。同一の測定値は一つしか表示されませんが、平均値を求める計算にはカウントされます。

平均値測定用測光ボタン \bar{M} が押されるたびに、それまでの測定平均値が表示されます。平均値測定を表すAVRが左側ディスプレイに表示され、さらに、1/2ステップにまらめられた絞り値がアナログスケールに点滅表示されます。

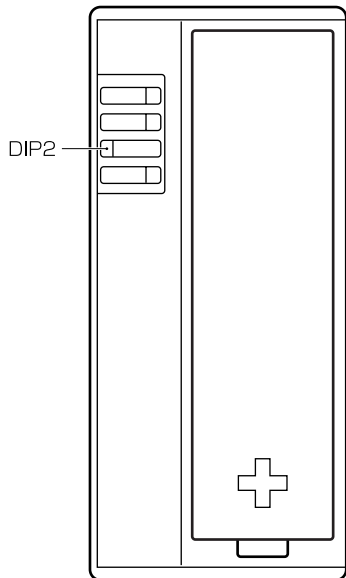
ディスプレイの中央部には、測定回数が表示されます。(図の例では4回を示します)



6 定常光測光

6.シャッタースピード設定の選択

標準で設定されている、1ステップのシャッタースピード（露出時間）設定に加え、1/2ステップも、電池室内部のDIPスイッチにより設定できます。（7ページ参照）

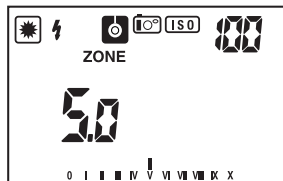


7.ゾーンシステムモードでの測定

この機能は、主にモノクローム写真の分野で、被写体のコントラストを分析する目的に用いられます。

最終的にフィルムやプリントのコントラストを決定する条件は被写体の明るさの他に数多くあり、ゾーンシステムについて詳述するのは本取扱い説明書の範疇を大きく越えています。興味のある方は専門の解説書をお読みください。

スターライトとゾーンシステム
スターライトは、被写体のさまざまな部分の明るさを予め設定されたゾーンスケール上に表示する機能をもっています。



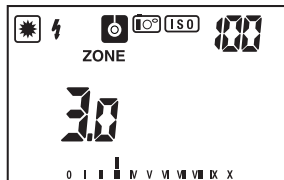
6 定常光測光

ゾーンシステムモードでの測定

このモードを使用するには、電池室内部のディップスイッチ(DIP4)をアクティブに設定します。(7ページ参照)

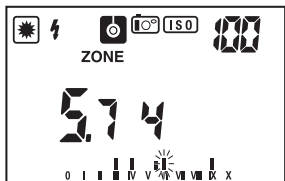
- ディフューザーリングを回し、反射光測定1°に設定します。
- 左側ファンクションボタン◀を押しながら設定ダイヤルを回してZONEを選択します。
- ビューファインダーで、被写体の最も暗い部分で、しかもディテールを表現したい部分を狙います。
- 測光ボタンMを押して測光します。測定された値が自動的にゾーンVに設定されます。
- 設定ダイヤルを回して設定したい最暗部ゾーンにセットします。(例ではゾーンIII)

- この後、測光ボタンMで被写体のさまざまな部分を最大8ヶ所まで測定します。ディテールを表現したい重要なハイライト部分を含める必要があります。



測光ボタン \bar{M} でのそれぞれの測定後、次のデータがメモリー、表示されます。

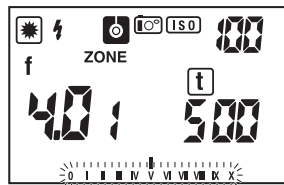
- ZONEシンボルと最新の測定値が左側ディスプレイに表示されます。
- これまでの測定回数が右側ディスプレイに表示されます。(例では4回)
- ゾーンスケール上にこれまで測定された値がプロット表示され(同一値は1つ)、最も明るい部分と暗い部分の平均値が点滅表示されます。



測定がすべて終わったら、左側ファンクションボタン \blacktriangleleft を押しながら設定ダイヤルを回して定常光測定モード \odot にします。ZONEシンボルが点滅し、ゾーンVに対応する露出値が表示されます。

フィルム現像用データとして、必要に応じコントラストレンジを記録します。


間違っても入射光モードでゾーン測定を行うと、ディフューザーシンボル \blacksquare が点滅して警告します。

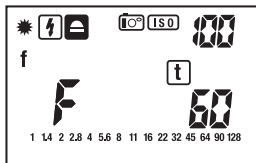


7 フラッシュ光モードでの測定

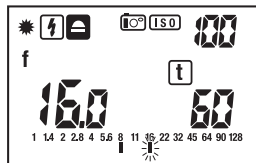
入射光及び反射光両方のモードでフラッシュ光測定が可能です。さらに、シンクロコードの有無に関わらず測光できます。シンクロコードを接続した場合、測光ボタンMを押すことでフラッシュは自動的に発光し、測定が行われます。

1. フラッシュ光の測定

- 右側ファンクションボタン▶を押してフラッシュ光モードに設定します。(前回の測定値が表示されます。)
- 設定ダイヤルを回してシャッタースピード(シンクロスピード)を設定します。1秒から1/1000秒の設定ができます。
- 測光ボタンMを押します。約45秒間(ディスプレイにFが表示されている間)測光可能状態となります。



- フラッシュを発光させます。シンクロコードを接続している場合、測光ボタンMを押した時にフラッシュは自動的に発光し、測定が行われます。
- 測定された絞値(フラッシュ光と定常光の合計値)が左側ディスプレイに1/10絞単位で表示され、アナログスケールの場合は絞値が1/2ステップで表示されます。アナログスケール上に固定表示される値は、定常光部分のみに相当する絞り値です。

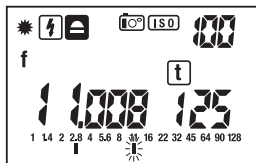


2.シャッタースピードを変更して フラッシュ光を計算する

測定した結果、定常光部分が希望する割合にならない場合、別のシャッタースピードを使った時の計算を行うことができます。

設定ダイヤルを回して異なるシャッタースピードを選択するだけで、新たに測光をする必要はありません。結果はディスプレイに表示されます。

【注意】シャッタースピードを新たに選択する場合、フラッシュの閃光時間より短い時間にならないようにしてください。短くなる場合には改めて測光しなおす必要があります。

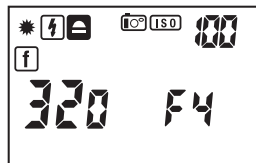


3.マルチフラッシュ計算

1回のフラッシュだけでは希望する絞り値に対し光量が不足することがあります。このような場合には、右側ファンクションボタン▶を押しながら設定ダイヤルで **f** を選択します。ファンクションボタンを離し、希望する絞り値をセットすると、右側ディスプレイに必要なマルチフラッシュの回数が表示されます。

(例ではF4=4回)

最大の表示回数は9回です。



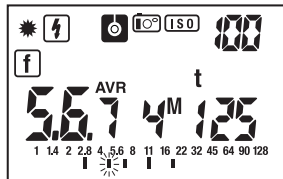
7 フラッシュ光モードでの測定

4. 平均値測定

- 最初の測定は測光ボタンMを押して行います。ディスプレイの中央部には、測定回数が表示されます。(図の例では4回を示します)
- 平均値測定用測光ボタンMを押すことにより、最大8回までの追加測定ができます。測定された値はそれぞれアナログスケール上に表示されます。

同一の測定値は一つしか表示されませんが、平均値を求める計算にはカウントされます。平均値測定用測光ボタンMが押されるたびに、それまでの測定平均値が表示されます。

平均値測定を表すAVRが左側ディスプレイに表示され、さらに、1/2ステップにまるめられた絞り値がアナログスケールに点滅表示されます。この場合、定常光部分の表示はしません。

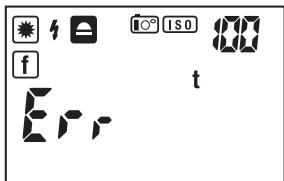


8

測定範囲／表示範囲を超えた場合

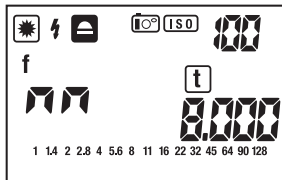
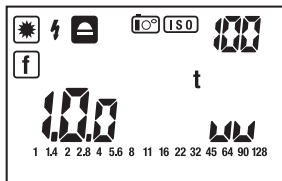
1. 測定範囲を超えた場合

- 測定範囲を超えた場合には有効な測定ができません。
- この場合には、測定中にErr(=Error)が左側ディスプレイに表示されます。



2. 表示範囲を超えた場合

- 右側または左側ディスプレイに **LL** または **HH** シンボルが表示された場合は、測定はできているが、表示範囲を超えています。
- 設定ダイアルで、表示範囲に設定します。



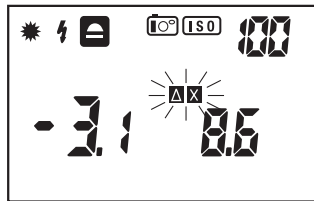
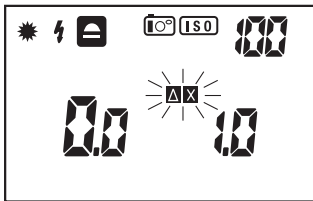
9 補正値の設定

1. 補正値の設定

- 2つのファンクションボタン(◀および▶)を同時に押すことにより、補正値設定モード **ΔX** になります。
- ディスプレイに、現在設定されている値が表示されます。
- 設定ダイアルにより、希望の値を入力します。露出倍数が右側ディスプレイに表示され、補正値はEV値で表されます。入力は1/10EV単位で行い、+-9.9EVまでセットできます。露出時間を長くする場合の補正は、"- "が頭に表示されます。

[例]

-3.1EVの補正は、露出倍数では8.6に相当します。露出時間を短くする場合には、左側ディスプレイのEV補正値のみが表示されます。どちらかのファンクションボタン(◀または▶)を押すことにより、表示された補正値が設定されます。補正シンボル **ΔX** が表示されます。設定された補正値はすべての測定モード(照度測定を除く)で使用されます。



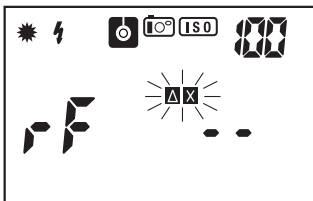
2.補正値の測定

フィルターの補正値などは直接測定することが可能です。この場合、均一で、しかも安定した光源を使用することが必要です。

反射光測定1°または5°を使用します。

補正値設定モード ΔX で測定ボタンMを押して基準値を測定します。左側ディスプレイには「rF」が表示されます。

次に、対象となるフィルターをビューファインダーの前に置き、測定ボタンMを押します。必要な補正値(EV)と露出倍数が自動的に表示されます。



3.補正値のキャンセル

補正値設定モード ΔX で行います。キャンセルには2つの方法があります。

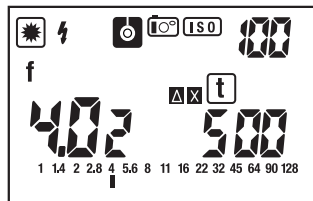
●設定ダイアルでEV補正値0（露出倍数1.0）にセットする。

あるいは

●測定ボタンMを押す。（rF表示）次に

●どちらかのファンクションボタン（◀または▶）を押す。



以上で補正値はキャンセルされ、補正シンボル ΔX が消えます。





10 シネ設定

電池室内部のディップスイッチ(DIP1)の設定により、スターライトはシネメータ(および照度計)として機能します。


シネメーター

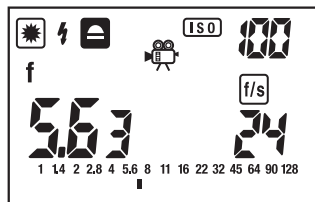
- 反射光測定あるいは入射光測定を選択します。
- 左側ファンクションボタン  で定常光測定  にします。

1. シネスピードの選択

- 左側ファンクションボタン  を押したまま設定ダイヤルを回し、"f/s"を選択します。ディスプレイに  が表示されます。
- ファンクションボタンを離し、設定ダイヤルでシネスピードを設定します。
- コントラスト測定(6-4)、平均値測定(6-5)も行えます。ディップスイッチ(DIP2)の設定により、他のシネスピードも設定可能です。

2. シネ測定

- 測定ボタン  を押して測定します。
- 測定された絞り値が左側デジタルディスプレイに1/10絞りステップで表示されます。さらに、1/2ステップにまるめられた絞り値がアナログスケールに表示されます。



3.シャッター角度の設定

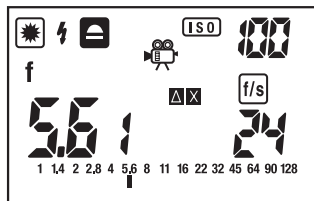
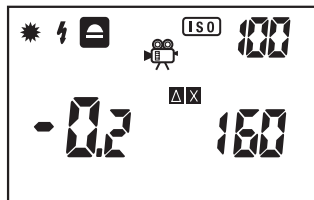
シャッター角度は工場出荷時180°に設定されています。

他の角度に使う場合には設定を変更します。面倒な計算は必要ありません。

- 2つのファンクションボタン(◀および▶)を同時に押します。ディスプレイに、現在設定されている角度が表示されます。
- 設定ダイヤルにより、希望の角度を5°ステップで入力します。
- どちらかのファンクションボタン(◀または▶)を押すことにより、測定モードに戻ります。変更された角度とともに補正シンボル ΔX が表示されます。

シャッター角度の変更により、すべての測定結果は補正して表示されます。

このシャッター角度補正は照度測定モードでは無効となります。また、シネモードでは、通常の補正值設定はできません。



11 照度設定

電池室内部のディップスイッチ(DIP1)の設定により、スターライトは照度計(およびシネメーター)として機能します。

1. 照度表示単位の選択

電池室内部のディップスイッチ(DIP3)の設定により、照度表示単位の選択が可能です。

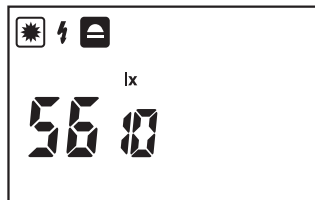
- lx cd/m² : 入射光測定された照度は標準単位(lx、lx_s、cd/m²、cds/m²)で表示されます。
- fc FL: 入射光測定された照度は英国式単位(fc、fcs、fL、fL_s)で表示されます。
- 左側ファンクションボタン◀を押したまま設定ダイヤルを回し、照度測定モードを選択します。

ディスプレイに"lx"または"fc"が表示されます。(ディップスイッチ(DIP3)の設定により変わります。)

2. 照度の測定

ルクス (lx) またはフットキャンドル(fc)

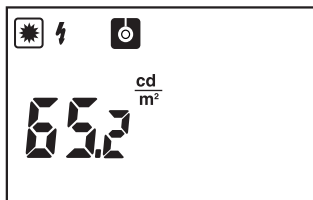
- ディフューザーリングを回し、入射光測定、平面ディフューザーに設定します。球面ディフューザーに設定すると、エラー表示になります。(☒ シンボルが点滅します。)
- ディフューザーを光源に向け、測定ボタンMを押して測定します。



3.光度の測定-カンデラ(cd/m²) またはフートランバート(fL)

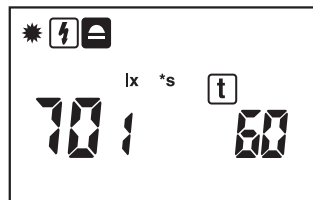
- ディフューザーリングを回し、反射光測定1°
☉または5°☑に設定します。
- ビューファインダーで測定したい部分を狙い、
測定ボタンMを押して測定します。

選択された単位とともに測定された光度が表示されます。



4.時間積分値の測定 (lux, fcs, cds/m², fLs)

- 入射光測定、または反射光測定に設定します
- 右側ファンクションボタン▶を押して、フラッシュ測定モード☑にします。
- 希望する測定時間を、設定ダイアルでセットします。右側ディスプレイに表示されます。
- 測定ボタンMを押してフラッシュ光を測定します。(P24参照)
- 1秒に換算された値が予め設定された単位で表示されます。設定された測定時間により定常光(環境光)も計算されています。



12 仕様(同梱品)

測光素子

- Sbc シリコンフォトダイオードx2

測定範囲(定常光、ISO 100)

- 入射光 EV -2.5 ~ +18
- 反射光 1°EV +2.0 ~ +18
- 反射光 5°EV +1.0 ~ +18

測定範囲(フラッシュ光、ISO 100)

- 入射光 f1.0 ~ f128
- 反射光 1°f2.8 ~ f128
- 反射光 5°f1.4 ~ f128

フィルム感度設定範囲

- ISO 3 ~ ISO 8000

絞り設定範囲

- f0.5 ~ f128

シャッタースピード設定範囲

- 標準スピード系列：1/8000秒~60分
- その他：

1/6000、1/3000、1/1500、1/750、1/350、
1/180、1/90、1/45、1/20、1/10、1/6、
1/3、1/0.7、1.5、3、6、10、20、45、(分)
1.5、3、6、10、20、45

- フラッシュシンクロスピード：
1~1/1000s

シネスピード

- 標準系列：8、12、16、18、24、25、
30、50、64
- その他：2、3、4、6、36、40、48、60、
72、96、120、128、150、200、
240、255、300、360

マルチフラッシュ
最大9回

電池
1.5V 単3乾電池 1本

外形寸法
164 x 66 x 26 mm

重量
195 g

使用温度範囲
-10°C ~ +50°C

保管温度範囲
-20°C ~ +60°C

同梱品

- | | |
|-------------|----|
| ●スターライト本体 | ×1 |
| ●ソフトケース | ×1 |
| ●ストラップ | ×1 |
| ●単3乾電池 | ×1 |
| ●ファインダーキャップ | ×1 |

GOSSEN輸入総代理店



KOMAMURA
CORPORATION

株式会社駒村商会

〒103-0013

東京都中央区日本橋人形町3-2-4駒村ビル

TEL.03-3639-3351 FAX.03-3808-0116

www.komamura.co.jp